|  |
| --- |
| 高校探究科No.01(K3) |

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年 | ３ | 組 |  | 番 |  | 名前 |  |

2023©Assumption-Kokusai

|  |
| --- |
| ０．卒業論文の流れ |

１．課題

|  |
| --- |
| ・高校3年間の探究科の授業で身に着けた知識・学びのスキルをもとに卒業論文を書こう　国際社会・日本社会の問題についてSDGSを意識しながら自分でテーマを設定する |

２．卒業論文の説明

|  |
| --- |
| ・作文が自分の考えを中心に記述するのに対し、論文とは自分の問いに対して、客観的な根拠をもとに答えを導き、自分の結論を書くものです。・論文の制作は高校3年生の探究科の時間を1年間使って行います。　・目標とする量は　Word　A4　2枚以上（2880字）　です。図や表も使ってください。 |

３．卒業論文の手順

|  |  |
| --- | --- |
| 高2　3学期後半　　　↓高3　1学期前半　　　↓　高3　1学期後半　　　↓高3　2学期前半　　　↓高3　2学期後半　　　↓　高3　3学期 | ・テーマ（問い）の検討・決定　　　↓・テーマについてレジュメ作成・発表　　　↓・論文1次原稿制作・完成　　　↓　※指導教員による論文チェック・指導・論文最終原稿制作・完成　　　↓　※指導教員による論文チェック・指導・論文内容についてポスター制作・最終発表会実施　　　↓　　・論文相互評価・論文集印刷 |

|  |
| --- |
| １．卒業論文の材料を集めよう |

|  |
| --- |
| テーマ（問い）に対して答えを見つける論文を制作するには、テーマについての基本的知識（言葉の定義、現状など）と、結論を述べるための客観的根拠（公的機関・学者の意見、数値データ、過去・他国の事例）が大切になります。今回は基本知識や根拠を準備してみましょう。 |

STEP1　高校2年の時に考えたテーマについて問い（仮説）の形で書きましょう。（変更しても可）

|  |  |
| --- | --- |
| 　　　テーマ | （例）牛乳と身長の関係とは？ |

　　　　　　　　　①テーマは大きすぎないか？　　②専門的すぎるテーマではないか？

　　　　　　　　　③曖昧な言葉ではないか？　　　④予言・予想的なテーマではないか？

　　　　　　　　　④How to（方法）ではないか？　⑤調べたらすぐわかるテーマではないか？

STEP2　アドバイスを聞いて、論文を書きやすい問い（仮説）の形に修正しよう。（変更なしでも可）

|  |  |
| --- | --- |
| 　　　テーマ | （例）牛乳を飲むと背は伸びるか？ |

STEP3　自分が予想する問い（仮説）の答え・結論を書こう。

|  |  |
| --- | --- |
| 答え予想（結論） | （例）牛乳を飲むと背は伸びる |

STEP4　仮説が正しいか？結論を導くための証拠・根拠を複数調べよう。その際に出典も書こう。

　①同じテーマで先に研究した人（先行研究）がいないか？調べてみるとよい。

②調べる先（出典元）は、公的機関（国際機関・各省庁）、学者など信頼できるページを選択する。

　③統計など数値データもあると説得力は増す。

|  |  |
| --- | --- |
| 根拠① |  |
|  | 【出典】 |
| 根拠② |  |
|  | 【出典】 |
| 根拠③ |  |
|  | 【出典】 |

・根拠を調べるのが難しい場合、問いを少しずらす方法もあります。調べていく中でテーマを変えることはよくあることです。テーマを変更した場合は、二重線で修正してください。

・詳しくメモをしておくと、このあと論文を書く時にも役立ちます。

|  |
| --- |
| ２．レジュメ（発表用の要約メモ）にまとめよう！ |

タイトルは疑問形にして目的を明確に

【　見　本　】

**幼児期の教育や環境で人格は変わるのか？**

はじめにでは、そのテーマを調べようと思った理由・知りたいことを箇条書きで

**K3B（00）○○△△**

１．はじめに

　　・疑問「一人一人考え方や性格、好きな物、嫌いな物が違うのはなぜだろう？」

　　　→仮説「6歳までの幼児期の教育、環境が人格形成に影響をあたえるのではないか？」

次に調べたことを書いていく。レジュメでは文章ではなくポイント・見出しを箇条書きで書いていく

２．調査

（１）性格・人格は後天的に獲得される

　　・人格とは、独立した個人としてのその人の人間性。その人固有の人間としてのありかた。

　　・運動能力や体形は遺伝的影響を多く受けるのに対し、性格や学力は環境の影響を多く

　　　受けるとされる

（２）幼児期の発達の特徴

小見出しや(1)など番号をふると読みやすく整理できる

　　・身近な人や周囲の物、自然などの環境とかかわりを深め、興味・関心の対象を広げ、認識力や

社会性を発達させていく

・食事や排泄、睡眠といった基本的な生活習慣を獲得し、子ども同士で遊ぶことなどを通じ、

豊かな想像力をはぐくむ

参考：数字・データは説得力があるので書いておこう！表を使って整理してもよい

・自らと違う他者の存在や視点に気づき、相手の気持ちになって考えたり、時には葛藤をおぼえ

たりする中で、自分の感情や意志を表現しながら、協同的な学びを通じ、十分な自己の発揮と

他者の受容を経験していく。

・体験を通じ、道徳性や社会性の基盤がはぐくまれていく。（子供の徳育に関する懇談会資料）

（２）幼児期の環境と人格形成に関する先行研究

　　・養育者の育児に関する考え方や「どのような子供に育てたいか」という養育姿勢は、・・日々の

　　　相互作用を通して子供の個性にも影響されて変容していく。（清水）

　　・・・・・

調査したことからわかったことを書く

３．考察

　　・（１）より、人格の要素である性格や行動は後天的に獲得される要素が大きい

　　・（２）より、幼児期は認識や社会性、想像力、他者との関り、社会性の基盤が育まれる時期

　　・（３）の調査より、保護者など養育者の考え方や姿勢は、子供の個性にも影響するといえる

結論は設定したテーマの答えを書く

４．結論

　　・幼児期の教育や環境は人格形成に影響を与えるといえる。

　　　考察でのべたように、幼児期が・・・・・・という時期であり、養育者の考え方や姿勢が個性

にも影響しやすい。自分自身の経験から言っても、親の言葉や関りの影響は大きい。

最後に調べるのに使った本やWEBサイトは書いておこう。

しかし人間は成長し続ける存在であるから、以降の教育や環境の影響も大きい。

＜参考文献＞

　　〇〇△△，2014，「・・・・・（書名）」〇〇出版

基本的な書き方の例

　　文部科学省､2012,「子どもの徳育の充実に向けた在り方について （報告）」

　　　　https://www.mext.go.jp/b\_menu/shingi/chousa/shotou/053/gaiyou/attach/1286156.htm

Webは確認日も書く

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（2023.4.18　確認）